

## 産業集積の確実な根下ろし

### 光電産業

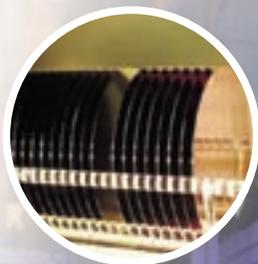
南科は台湾平面ディスプレイ産業の垂直整合のもっとも整ったクラスターである。日系の智索、住華、米系の康寧、3Mなど国際的著名メーカーが続々進駐し、パネル大手の奇美電子も工場拡張中である。2007年度は高治達、湛康材料、興南科技などの業者にも認可が下り、南科は世界的に見ても平面ディスプレイ産業の先進的地位を獲得しつつある。2007年度末、量産中のパネル生産代理工場は3.5-4で2社、5-5.5で4社、7.5で1社、建設中は6で1社、8.5で1社。

太陽エネルギー光電産業は、石油価格の世界的高騰を背景に、政府は現在再生エネルギーの利用を推進している。南科では積極的に太陽エネルギー産業集積の建設を進めており、2007年度は生耀、大億光能、宇通光能、福聚太陽エネルギー及び緑陽光電の5業者に進出許可が出た。認可投資額は313億円で、2007年度総認可投資額の71.5%を占めている。川上の材料、川中の電池から川下の型枠まで、太陽光電産業のサプライチェーンは日増しに整っている。

2007年度末、有効認可業者数は45社。営業額は1兆3,691億円と72.1%、従業員は35,098人と64.9%を占めている。

### 集積回路産業

2007年度末、有効認可業者計13社、認可投資金額4.4兆円。営業額は年率約10%の安定した成長をとげている。2007年度半導体業者は全力をあげて12インチ工場の拡張に取り組み、聯電が先進製造工程研究開発センターを南科に設置したり、大同電信会社に2007年度進出許可が出たり、WiMAX周辺のIC設計産業の活性化が見込まれている。2007年度末、4つのウエハー工場が量産中で、建設中および設備設置中もそれぞれ1社ある。量産工場のうち8インチが1つ、12インチが3つ。2007年度の営業額は4,427億円で、23.3%、従業員も11,955人と、22.1%をそれぞれ占めている。



産業集積の蔭で目覚ましい躍進



### バイオテクノロジー産業

2007年度進出許可を受けた業者は熒茂光学、医百、藍海、鴻君の4つの医療器材関連業者で、医療器材産業が南科において急速成長している様子がうかがえる。本局では財団法人金属工業研究開発センターと提携して高雄園區に医療器材産業区として歯科、骨科、高価値金属類、マイクロ機電にかかわる医療器材専用のエリアを設置する計画を進めている。2007年度末で累計で23社が進出し、営業額105億円と2006年度に較べて54.5%成長している。

### 通信電通信産業

新世代無線通信WiMAX技術およびその産業の発展をめざして、財団法人電信技術センターではWiMAXテスト認証実験室を設置し、WiMAX南区免許を取得した大同電信会社が2007年度高雄区進出の許可をえて、WiMAX無線ブロードバンド端末応用装置の研究開発をめざす。電信技術センターおよび大同電信が推進力となって、高雄園區では通信産業集積の発展を目指している。2007年度末で累計10社が進駐し、営業額52億円、従業員819人に達している。

### 精密機械設備産業

2007年度は4社の精密機械業者が進出し、真空システム、工業用ロボット、スパッタリングシステム(Sputtering System)、CVD ダイヤモンド (CVD diamond)などの関連設備を生産しており、園内のウエハー工場、光電工場に即時に提供できる体制を整え、コストの削減、産業競争力向上に力を発揮している。2007年度末で累計49社が進駐し、営業額634億円、従業員達3,122人に達している。将来、園内に半導体、TFT、太陽エネルギーなどの産業が整い、関連自動化設備の投資を呼んで、南科に精密機械産業の生産体制が完成する見通し。

